

OECD閣僚理事会サイドイベント
「安全、安心で信頼できるAIに向けて：
包摂的なグローバルAIガバナンスの促進」
岸田総理大臣冒頭発言

(令和6年5月2日)

1 冒頭

コーマン事務総長、ご列席の皆様、本日はご参加いただきありがとうございます。

2 安全、安心で信頼できるAIの実現に向けて

生成AIは、世界を更に豊かにする重要なツールとなる力を秘めている、私はそう信じています。保健医療や気候変動などの課題の解決に向け、AIはこれまで想像もできなかったような貢献をしてくれるでしょう。

一方で、生成AIは光の側面だけではありません。我々は偽情報のリスクといった影の側面とも戦わなければなりません。

そうしたAIのリスクを軽減しつつ、その革新的な機会を最大化するためには、安全、安心で信頼できるAIの実現のための国際ガバナンスの形成が急務です。そのような思いで、私は広島AIプロセスを立ち上げました。AI開発者が守るべき責務である国際指針や行動規範を策定し、生成AIを巡る具体的なリスクの低減に取り組みました。

このような取組において、世界最大のシンクタンクとも言われるOECDの協力は不可欠でした。OECDにおいても、今般、AI原則の改定という具体的成果が生み出されることを歓迎します。

AIは人類全体に影響を及ぼす革新的技術であり、多くの国が共通の認識を持つことが重要です。本日、OECDメンバーを中心に49か国・地域の参加を得て、広島AIプロセスの精神に賛同する国々の自発的な枠組みである「広島AIプロセス フレンズ

グループ」が立ち上がったことを嬉しく思います。フレンズグループのメンバーの皆さんとともに、生成A Iのリスクに対処するための国際指針や行動規範の実践に取り組み、世界中の人々が安全、安心で信頼できるA Iを利用できるよう協力を進めていきます。

A Iの影の側面と戦うには、こうしたガバナンスの取組に加えて、リスクを低減するための個別の技術的措置の積み上げも重要です。日本は、G P A I東京センターを新設し、多様な専門家による技術実証等のプロジェクトを力強く支援します。日本は、生成A Iがもたらす偽情報等のリスクに対応するため、発信者情報を確認するための技術の社会実装に向けた取組も支援する予定です。

3 結語

皆さん、人類の叡智を結集し、A Iの光の下に繁栄できるよう、一緒に取り組んでいきましょう。